

平成 25 年度 決算 の 状 況

平成 25 年度は国の「大胆な金融政策」、「機動的な財政政策」、「民間投資を喚起する成長戦略」の「三本の矢」による一体的な取り組みの政策効果から、家計や企業のマインドが改善し、消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がった。また、企業収益の増加から設備投資が持ち直しつつあり、雇用・所得環境が改善していく中で景気は着実に上向いているが、未だ十分に浸透しているとは言えず、業種ごとの景況にもばらつきが見られる。

このような情勢の中、本市においては H24.3 補正予算、H25 当初予算、H25.6 補正予算の 3 つをリンクした「まちづくり継続型予算」とし、ハード面ではサイエンスヒルズこまつやこまつ曳山交流館みよっさのオープン、ソフト面ではこども医療費の拡大やフローラルこまつの展開、全国産業観光フォーラムの開催など、「北陸の際立ったまち」へ向けてさまざまな事業を実施した。

歳入歳出性質別決算の対前年比を見ると、歳入では、景気の持ち直しによる法人市民税の増加により市税全体として 3.0%（約 4.6 億円）の増収となった。また、地域の元気臨時交付金など国庫支出金は 11.2%（約 8.2 億円）の増、私立保育所の施設整備補助金など県支出金も 11.6%（約 3.2 億円）の増となった。市債については、減収補填債の発行がなく、退職手当債の発行減、地域の元気臨時交付金の活用による地方建設債発行抑制などにより 8.5%（約 5.5 億円）の減となっている。これらの結果、全体で 3.7%（約 16.2 億円）の増となった。

歳出では、給与の暫定減額や退職手当の減などにより人件費が 4.4%（約 2.8 億円）の減となった。また、小中学校改築に係る事業量は減少したものの、サイエン

スヒルズこまつや曳山交流館みよっさの整備などの増加により、普通建設事業費が12.8%（約10億円）の増、社会保障関連費用である扶助費の増もあり、全体的に3.9%（約16.5億円）の増となった。

なお、各会計の決算状況は次のとおりである。

1. 一般会計

予算額46,711,664千円の内1,499,630千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入45,241,070千円、歳出44,427,432千円で、繰越財源201,831千円を除いた実質収支額は611,807千円の黒字決算となり、その内310,000千円を基金へ積立て、実質繰越額は301,807千円となった。

2. 特別会計

(1) 国民健康保険事業

予算額11,809,503千円に対し、決算額は、歳入11,521,971千円、歳出11,441,895千円で、実質収支額は80,076千円の黒字決算となった。

(2) 簡易水道事業

予算額33,100千円に対し、決算額は、歳入歳出とも32,496千円となった。

(3) 農業集落排水事業

予算額473,625千円の内2,000千円を次年度に予算繰越しし、決算額は、歳入歳出とも468,250千円となった。

(4) 介護保険事業

予算額9,107,368千円に対し、決算額は、歳入9,101,783千円、歳出9,081,059千円で、実質収支額は20,724千円の黒字決算となった。

(5) 公債管理

予算額 9,511,000 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 9,502,612 千円となった。

(6) 工業団地造成事業

予算額 177,100 千円に対し、決算額は、歳入歳出とも 104,228 千円となった。

(7) 後期高齢者医療

予算額 1,174,415 千円に対し、決算額は、歳入 1,170,337 千円, 歳出 1,167,939 千円で、実質収支額は 2,398 千円の黒字決算となった。